

コニカミノルタ株式会社  
プレジジョンメディシン事業説明会  
主な質問と回答

日 時： 2021年3月18日（木）13:00 ～ 14:00

方 式： オンライン／テレフォンカンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、事業説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

Q) 今後、中期的に注力していく Somatic の領域で、戦略としてリキッドバイオプシーがあるとの事ですが、Ambry Genetics 社は先天性リスク診断で強みを持つ一方で、Somatic で先行している他社の強みをキャッチアップしていくのは難しいと思うのですが、もう少し Somatic の戦略について教えてください。

A) 当社の強みは色々ながんを調べられる点にあります。患者様の負担がなく、血液サンプルをベースにメチル化のような変異ではない部分を検出することがリキッドバイオプシーの主目的と考えています。一方、組織検査は、融合遺伝子（fusion gene）を検査する、あるいは薬剤と紐づいた組織検査を目的としています。市場の動向としては、Germline（生殖系細胞列）とSomatic（体細胞）のペアテストが重要視されるようになっていきますので、対応していきます。さらに日本の産学連携による Somatic 展開に向けた包括的なパネル検査（TOP2）も当社の強みです。

Q) Somatic で色々な種類の癌の遺伝子変異を見る際に、現状 Ambry Genetics 社は Somatic に関するデータベースをあまり持っていないという理解でよいのでしょうか。また、他社のパテントやノウハウ

等は、Somatic のプレゼンスを上げていく上で障害にはならないでしょうか？

A) 当社の得意とする遺伝性の検査ではデータベースでの解析が重要ですが、Somatic の検査はある部分の変異の有無を調べ、薬剤や治療方法を決定するものなので、データベースの蓄積は現時点では重要ではありません。多くのスタートアップ企業が技術を持ち特許を出していますが、当社はそれらを理解し、独自のやり方を用いるなどで回避可能と考えています。この分野は小さくても良い技術を持つ会社が多数ありロングテールである特徴があります。それらを見極める力も大事になってきます。

Q) LATTICE の展開スケジュールは、どのような計画でしょうか？

A) Ambry 社の計画が LATTICE によって既に実現されているものもあれば、これから作り上げていく部分もあります。まずは Ambry、Invicro それぞれで LATTICE 上のサービスを展開します。また、AWS により提供されるプラットフォームを遺伝子検査のみ、イメージングのみで活用することも考えられます。最終的にはマルチオミックスのデータを持ち、AI 解析を合わせていきます。様々なサービスを提供しながら徐々に作り上げていくものをご理解ください。

Q) 乳癌で、画像データと遺伝子データをリンクさせるという説明がありましたが、今の段階でも Ambry 社の遺伝子情報を基に、BRCA 変異に由来するがんの画像を合わせることで、精度を上げることは可能なのでしょうか。また、競合の遺伝子検査会社でも、協業などにより画像情報を得ることができれば同じことを実現することは可能でしょうか。患者の同意のような社会的な仕組みも必要という理解で良いでしょうか。

A) 同じ患者のデータを取得するハードルはありますが技術的には可能で、現状は開発段階です。競合での実現可能性についてですが、LATTICE のようなデータアクセスの仕組み作りが必要だと考えています。すなわち同じプラットフォーム上にデータを集約し AI 解析を行うことで初めて実現するものなので、単なる協業で実現できるとは考えていません。その点で、イメージングの技術を持ち同一のプラットフォームでデータを取り扱うことができるのが当社の強みだと考えています。社会的な仕組みについてはご指摘の通りです。

Q) 今回発表した大きな構想を今後実現していく中での資金調達の考え方を教えてください。

A) 資金については内部のキャッシュを優先しますが、米国の市場が活況なので、米国市場の資金調達を幅広く選択肢として検討しています。大きなリターンのある機会があると見ているので検討しています。

Q) P.38 で、FY25 まで同水準の投資規模でトップラインを 4 倍まで目指すとされており、追加投資がそれ程大きくない中でリターンを増やす計画ですが、一方で p.39 では更なる M&A の可能性も示唆しています。コニカミルタへの投資家として、本ビジネスのリスク&リターンをどのように考えていけばよいでしょうか。INCJ のプットオプションもあります。今後の考え方について教えてください。

A) P.38 はオーガニックな成長部分になります。M&A を行うのであれば大きな投資が必要となります。当社全体の企業価値を上げるためには、収益貢献と同時に、ある程度の事業規模が必要と認識して

います。当社の中で既存ヘルスケア事業とプレジジョンメディシン事業の割合を高めることは企業価値向上につながりますので、オーガニックな成長に加えてさらに成長するためには M&A も大事な選択肢の一つと考えています。

Q) アルツハイマー病のリキッドバイオプシーについて、国内の他社では実現化の目途が大分立ってきていると聞きますが、これらの他社技術を使っていくのか、あるいは別で独自にやっていくのでしょうか。まもなく、リキッドバイオプシーが多用される時代がくると思いますが、今後、どのような対応をしていくのでしょうか？

A) アルツハイマー病のリキッドバイオプシーは、血液や脳脊髄液（CFS）などを用いて色々なマーカーが開発されていますが、当社のリキッドバイオプシーは、血液を用いた遺伝子検査がベースにあり、独自開発ではなく製薬企業と一緒に開発していくのが基本的な考え方です。

Q) 今後、早期アルツハイマーの治療薬が出てくる中で、患者による病態進行の差が大きいことがデータにばらつきを生み試験を難しくしているという課題がありますが、御社の技術によりこのような課題に対応できるのでしょうか。また、エピジェネティクスの分野における製薬の進展が最近思わしくありませんが、御社のサポートにより解決する可能性は見込めるのでしょうか？

A) アルツハイマー病の創薬会社のトップ 5 のうち 4 社が当社の顧客であり、ご指摘のような病態の進行の差異についての議論を重ねています。  
エピジェネティクスの薬は研究対象の一つですが、直ぐに商品化することは難しいと考えています。

Q) 日本でのビジネスプランや目標を教えてください。特に保険収載が認められる等の進展はありますでしょうか。また、売上規模拡大の中で日本市場はどれくらい寄与する計画でしょうか？

A) 日本で保険収載を念頭に置いているのは、Ambry 社の乳癌、卵巣癌系統の検査、Somatic のトップ 2 パネルです。Invicro 社側では、グローバルな創薬支援をイメージングでサポートを行います。実際にラボも日本で構築中です。保険収載を前提に、Ambry 社、Invicro 社事業の大半を日本でも導入していきます。また、事業規模は P.38 にありますように、日本の 5 年後の割合は約 1 割程度を計画しています。

以上